

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域で「その人」らしく暮らし続けられるようにとの願いを込め理念としている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念は常に玄関・食堂・相談室・ステーション・職員トイレ等に貼り、常に目につくようにし、いつでも管理者と職員が理念の共有ができる環境作りに努めている。また、朝の申し送り時に必ず理念を唱え、一日の仕事初めの決意としている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ご家族への理念の啓蒙は、入居時などに説明させていただき、地域の方には、運営推進会議の出席時に啓蒙するよう努めている。また、町内清掃の参加の際にグループホームの質問を受けるが、その時には理念も含めお話している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	隣近所の方とは、入居者と散歩に出かけた時に挨拶を交わしたり、町内清掃などに、常に管理者や職員が出席し、顔見知りの関係作りに努めているため、ホームの前などで行き会った時などでも、気軽に挨拶ができる関係ができています。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会の防災訓練、総会は常に管理者や職員が出席し、町内の文化祭には作品を出品、納涼祭は入居者が参加し顔見知りの関係作りに努めている。また、毎年秋に富士たちばなグループとして、地域の方々に感謝の気持ちを込め「感謝祭」を開催し参加をいただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>敬老の日・年末の餅つきなど、季節感が味わえるイベントなどに地域の高齢者などを誘い、一緒楽しむことができるか検討しているが、実施には至っていない。</p>	○	出来ることから実施していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者は、職員に外部評価を受ける意義を説明し、自己評価を通し悩みや改善点を明らかにしながら話し合いを持ち自己啓発に生かしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、評価を公表し、その都度改善点や問題点を提起し、出席者からも意見を得ている。また、改善したものはその都度、改善途中のものは進捗状況を報告し意見の交換をしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>会議以外での行き来はあまりないが、問題点等が発生した際は相談している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修に参加しているが、未だ必要とする事例には至っていない。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部や施設内の勉強会等に参加し、常に学ぶ機会を持っている。また、ホーム内で見過ごしのないようホーム長会議やホーム内のカンファレンス等で話題にし関心をもつよう心がけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者がその都度十分な説明の基に行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直にスタッフに言えるような雰囲気作りに心がけている。意見、苦情等が発生した際は、カンファレンス・ホーム長会議を開催し、内容を検討している。ホーム長会議で解決できない苦情等は苦情処理委員会を召集し検討、解決に導いている。また、その結果は、利用者に報告すると共にスタッフで情報を共有し運営に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にはないが、面会が頻回にあるため、面会時にその都度発生した内容を個々に報告している。また、遠方の方は、不定期ではあるが、電話で近況報告をしている。暮らしぶりは施設全体で発行している「さんぽ道」に掲載し、定期的に家族のもとに届けられている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を玄関に設置し来訪者の意見が直に届くようにしている。また、直にスタッフに言えるような雰囲気作りに心がけ、意見、苦情等が発生した際は、カンファレンス・ホーム長会議を開催し、検討。ホーム長会議で解決できない苦情等は苦情処理委員会を召集し検討、解決に導いている。その結果は、家族等に報告すると共にスタッフで情報を共有し運営に反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長会議を定期的で開催し、必要に応じ事務長等が出席し意見交換する機会を持っている。また、不定期ではあるが、日常的に運営者や事務長が各ホームをラウンドし、職員の意見をその都度聞いている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	苦しい現状があるが、出来る限り柔軟な対応に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や施設内の異動は避けられないことであるが最小限度に留めている。職員が代わった際は同じサービスが提供できるようケアプランなどを活用し同一のサービスが提供できるようにしている。尚、個人のケアプランが直ぐ確認できるよう、記録に挟み込んである。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時、認知症介護基礎研修等内外の研修に参加している。また、事業所内に勉強委員会主催の勉強会には随時参加し、知識の吸収に努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の会議やグループホーム大会等に参加し、交流を図っている。	○ 現在、他のグループホームとのスタッフ交流を検討中。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	施設内でボーリング大会や旅行などで職員同士が交流し話し合える環境作りに努めている。また、運営者や管理者は話しやすい雰囲気を持っているため、相談しやすくストレスの軽減につながっている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	不定期であるが、運営者や管理者はホーム内をラウンドし、勤務状況を把握している。また、チャレンジしてみたい研修や業務がある場合は、進言できるシステムがある。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に家庭訪問や面接を行い、本人の気持ちや状況を伺うが、なかなか本人から聞き取ることは難しいが出来る限りコミュニケーションを図り、求めていること等を探り、受けとめるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に家庭訪問や面接を行い、家族の気持ちや状況を聞き取り、具体的な対応策を提示し不安の解消に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」はカンファレンス等を開催し、必要な支援を見極めている。また、グループホームで対応しきれない案件は、創春館に在職している相談員や居宅の介護支援専門員などと協議し対応に努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心し、納得した上でサービスを利用できるよう、いきなりサービスを開始することなく、お試し期間を設け環境や他の入居者と馴染めるか様子を見て入居の運びとしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事を一緒に摂ったり、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみなど日常的な仕事は一緒に行うよう努め、その都度入居者とスタッフが日常的な会話を楽しみ、日常的に喜怒哀楽を共にしている。また、季節行事など伝承行事に関しては入居者から仕来たりなどを教えていただき、お互いに支えあい、信頼関係を構築している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、スタッフがご本人を交え家族に日常生活の様子やイベントなどに参加した時の様子や表情などをその都度伝え、情報を共有しながら、本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族との関係を断ち切ることなく、家族の希望に基づいてできるものは実施している。また、面会時間もフリーとし、家族の生活時間の中で自由に行き来ができるようにしている。家族の泊まりの希望がある場合も実施している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないよう、馴染みの人と外出したり、馴染みの人が面会に来た際は、居室でゆっくり話ができるよう配慮している。また、馴染みの人探しなど出来る限り入居者の希望を取り入れ支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、利用者同士が一緒にできることは、共同作業となるよう心がけ、お互いが支えあえるような雰囲気作りに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約時に退居に至る事柄の説明をし、納得してもらっている。また、退居先がない場合は本人、家族と話し合い、退居先の支援も行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	年頭に今年目標をたて、目標に向かい日々暮らしている。また、思ってもスタッフに思いを伝えられないことが多々あるため、日記を書くことにより、日記の中の思いを重視し、個々に食べたい物、会いたい人などを探っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別性を重視し、家族に生活歴などの提供を協力してもらっている。本人からも日々のコミュニケーションなどから、暮らし方などを把握している。また、入居前に自宅を訪問し、暮らしぶりの把握に役立てている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	コミュニケーションをまめに図りながら、一人ひとりの一日の過ごし方などを把握し、体調管理は訪問看護と連携を図りながら把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランを作成する際には、スタッフ参加のケアカンファレンスを開催し意見を反映している。また、本人には随時思いを聞き、家族は面会時に意見を聞き、プランに反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了時にはケアカンファレンスを開催し、見直しを行っている。また、見直しなければ状態が発生した際は、医師、家族、訪問看護等と連携を図り、速やかにプランの建て直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきは、毎日の記録に丁寧に記載し、情報を共有している。その中でも必ずキーワードを記載し、キーワードをケアプラン作成時に役立てている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体調不良に関しては、併設のクリニックや訪問看護を利用し、入居者が希望すれば、併設の通所リハビリの慰問に参加し楽しんでいる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署とは、防火訓練の際に協力を得、地域のボランティアの方には、レクリエーションの協力を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状は行っていない。	○	随時検討し、前向きに活用を考えていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状は行っていない。	○	随時検討し、前向きに活用を考えていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が併設のクリニックがかかりつけ医となっているため、随時連携を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>一人ひとりの尊厳を大切に、丁寧で優しい言葉かけに努めている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>年頭に本人の希望を聞き、今年目標をたて、目標に向かい日々暮らしている。また、毎日書いている日記から、その日の思いなどを探り、納得の行くような暮らしぶりになるよう努力している。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>入浴の時間は、スタッフ優先の時間帯となっている。</p>	○	<p>今後は出来る限り、入居者優先の時間帯に入浴できるような配慮を考えていきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>外出する際はできるだけおしゃれができるよう配慮している。また、美容は本人の希望により出張美容を依頼している。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>りんごやじゃがいもの皮むきなど、手伝えるものはげきりだけ手伝ってもらう。また、一緒に食事を摂りながら会話し、楽しんでいる。</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>おやつなど一人ひとりの好みではなく、一律の物の提供となっている。</p>	○	<p>今後は一人ひとりの好みの物が随時提供できるよう検討していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時のトイレ誘導から、排泄パターンを見つけ極力トイレでの排泄習慣を大切にしている。おむつ着用が必死となった際は、スタッフカンファレンスで納得のいくまで検討し、おむつ着用に至る。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は、スタッフの業務優先の時間帯となっている。	○	今後は出来る限り、入居者の希望する時間帯に入浴できるような配慮を考えていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切にし、食堂や居室で自由に過ごしていただいている。寝ていただければ安心して寝ていただける環境を提供している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各入居者の力に合わせ、得意とする分野に活躍してもらえよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はお一人であるが、希望により買い物に出掛け使っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺ではあるが、希望者と散歩や買い物,をし楽しんでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一年に一度、夢を叶えるツアーを企画し、本人にどこにいきたいか、誰に会いたい希望を聞き、出来る限り希望に添えるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけることは難しい状況であるため、職員がかけ本人と代わることはある。また、手紙のやり取りも自由に行っている。本人が希望すれば、職員が代筆も行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間はフリーとなっており、お茶の接待などを心がけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束委員会を設置し、拘束に関する勉強会を開催している。また、身体拘束をしないケアを方針としている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけずに、玄関のチャイムにより出入りを分かるようにしているが、職員の目の届かない時間帯には、鍵をかけることもある。	○	除々にではあるが、職員の目の届かない時間帯の内容を検討し、鍵をかける時間を減らせるよう工夫している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員と連携を図りながら所在確認を行っている。居室で過ごしている入居者には、時々訪室し様子を見るようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや爪きりなどは、一人ひとりの状態により各自管理している。包丁は夜、キッチンのドアに鍵をかけ、取り出せないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ヒヤリハット、業務ミス報告書を記載し、職員間で情報を共有し、危険を防ぐ努力をしている。事業所内に事故対策委員会が設置されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のし方は事業所内の勉強会などで研鑽しているが、定期的に行っていない。緊急時の連絡網が作成されている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議などで常に話題にし、地域の方の協力が得られるよう努めている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会や運営推進会議などで具体的なリスクを提示し対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に一人ひとりの普段のバイタルなどを把握している。体調不良時は、バイタルを測定し、直ぐ併設のクリニックへ相談している。また、受診ノートを作成し、情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の服薬一覧表を作成し、常に確認できるところに貼り、目的などを把握している。副作用に関しては、処方された都度調べ把握している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの便秘の状態を把握し、服薬だけに頼るのではなく、水分摂取を促したり、繊維質の食事の工夫などを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアは入居者の状態に応じ、全介助、見守り、自立で行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の記録に食事摂取量や水分摂取量を記載し、状態把握に努めている。また、体重の増減、血液検査値などを参考にし、栄養バランスを考え、提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルが作成され、それに基づいて実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材のまとめ買いはせず、できるだけ鮮度のよい食品を提供している。賞味期限には気を配り、調理担当者はチェックしている。また、布巾、まな板などはその都度キッチンハイターに浸し、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、和やかな雰囲気作りに心掛けている。また、玄関まわりや建物の周囲には季節の草花を植え、玄関前には手作りのベンチを置き、近所の方が気軽に休んでいただける雰囲気作りに心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を敏感に味わってもらえるよう、季節に関する掲示物や季節の物、花などを常に飾っている。また、それらのアイテムを利用し、コミュニケーションを図り、昔を回想することで、穏やかに過ごしてもらえるよう努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓辺に椅子を置き、自由に座れるよう工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	家庭からの継続をモットーにしているため、馴染みの家具な どは持ち込み、居心地よく過ごすよう援助している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	換気は、朝の掃除や気になった際に随時窓を開け放し換気 に心掛けている。温度調整は、エアコンや床暖房を使用し、 外気温と大きな差が生じないようにしている。また、夜間帯は 室内の温度状況や入居者の状態によりエアコンのONとOFF をこまめに実施している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	廊下には手すりが設置してあり、車椅子専用のトイレの設置 もあり、安全に生活できるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	浴室やトイレなどは、分かりやすいよう扉に絵を貼ったり、表 札を出したりし、混乱のないよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ベランダにある草花の水やりやあ、日光浴など積極的に活用 している。また、ホーム前にある畑で収穫した季節の野菜を 普段の食卓に載せ楽しんでいる。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症ということもあり、自らの思いや気持ちをうまく伝えることができない入居者が多いため、毎日日記を書いている。その中には、今食べたい物、今会いたい人等の質問形式になっており、日々の感情の推移を読み取り、日々のメンタルケアやコミュニケーションの話題にしている。また、日記の食べたい物などを参考にし献立を立てている。新年には、入居者とスタッフが今年の目標を掲げ、1年その目標に向け意欲を持って生活できるよう工夫している。また、1年に1度(月は不定期)夢を叶えるツアーを企画し、行きたいと思っているところ、食べに行きたいと思っているところ、会いたい人等、自ら考えていただき実施している。小さな家の中で、毎日9人が暮らしているため、閉塞感をひしひしと感じる毎日であるが、このような支援を通し、穏やかに過ごしていただけるよう努めている。